

6. 濡れた兵器を錆びない様に

海水に濡れた兵器は寸暇を見付けて直ちに手入をしなければならぬ、怠つてゐると銃や劍は錆付いて動かなくなり弾薬は不發になる事がある。

六、熱地の行軍

1. 水は生命の親

暑い地方の戦争で水の事を注意すると「判り切つた事だ」と馬鹿にして聞かざらうが、経験のない者には判らない程水は有難く、得難いものである。水は水筒の外別にビール瓶か、何かで餘分に持つて行く事が便利である。一日の水の量は暑さに依つて違ふが少くも一人十立、一馬六十立の標準で考へて置かねばならぬ、併し水は何處でも得られないから各人は良い水を得た時に補充をし節約して飲む事が大切である、渴を覚えても一度に澤山飲まず、

0335

時々少し宛飲むやうにするとよい、又甘蔗、パイナップル、椰子の實(中に一、二合の水あり)等も渴きを醫するによく山地では藤を切つて其の切口を吸ふのもよい、熱帯地方には藤莖の非常に大きなものがあるが之は澤山水を含んでゐる、之を採るには先づ莖の下部を切り其の切口に器を置いて三、四尺上の方を更に切り落せば切り取つた部分の中の水を受取る事が出来る。總じて藤莖類で水を含むものは無害であるから安心して飲んでよい。馬に對しては時々食鹽を水に入れてやる注意が必要である。

2. よく眠りよく喰へ

行軍は戦況さへ許せば夜から朝にかけて涼しい間に行ひ、日中の暑い時に休むやうにするのがよいが連続夜行軍をやると睡眠不足で反つて弱る、であるから何とかして出来るだけ多く眠る事が必要である、喝病にかゝるのは睡眠不足と空腹とが一番原因である、暑い時には口がまづく食慾がなくなるのが普通であるから食事は數回に分けて食ひ又唐辛とか梅干とかを成るべく多

熱地の行軍

三五

0336

熱地の行軍

く携行して無理にでも食ひ腹を減らさぬやうにする事が何よりである。

行軍間の食事の一例を挙げると

- (イ) 朝食は出發前半分食ひ出發後約二時間経つて残り半分を食ふ
- (ロ) 晝食は十時頃及十三時頃の二回に分ける
- (ハ) 夕食は普通の通りであるが、夜行軍の場合には三回以上に分けるとよい

3. 行軍間の著装

晝間太陽のカン／＼照らす行軍では餘り薄過ぎる着物は光線を透して却つて悪い、頭の保護は何より大切で防暑帽を被るが更に綠草や樹の枝等で帽子を覆ひ或は是等を帽子の内に入れ又は背囊に附ける事は効果がある、服は成るべく緩つくり着装し出来るだけ風通しの良いやうにする事が大切である又出來たら扇子を持つとよい。

馬にも鞍の上に樹枝を挿したり防暑帽(代用品でも)や日覆を附けたりす

る事は人と同様必要な注意である。

4. 休む時には

休憩は回数を増加し三、四十分毎に二、三十分の割合で休み、日中の一番暑い時は出来るだけ二、三時間の大休止を行ふ事が必要である、休憩するに直ちに被服装具を解き上衣や靴を脱いで風を入れる事は言ふ迄もないが毒蛇の用心が大切である、草むらや、樹の上にいる蛇を踏んだり掴んだりして噛まれる場合がある、特に夜間の休憩にはよく注意し又面倒でも必ず防蚊具をつけ、出来るだけ雑草や樹の枝で燻べて、恐ろしいマラリア蚊をも防がねばならぬ。

5. 自轉車や自動車タイヤは膨れ機関は過熱する

自轉車や自動車のタイヤは暑さの爲に内の空氣が膨脹して破裂する事があるから半日以上行軍するやうな時は出發前に點検して空氣壓力を標準より一

熱地の行軍

三七

671

0338

割程減らす事が大切である。又内と外からの暑さの爲に機關が過熱し油が漏るから冷却と點檢とを特に怠つてはならぬ。途中水の補給が困難なる事を考へ出發の時から冷却水を携行して行くがよい。

七、熱地の宿營

1. 後半夜寝冷するな

熱帯地方でも後半夜は急に氣温が下るから汗で濡れたり、スモークで濡れた服を其の儘着て寝ると風邪や下痢の原因になるから出来るだけ着換へるやうにしなければならぬ。

2. 住民地は蚤と傳染病の巢

住民地は土人の生活程度が極端に低く衛生觀念は皆無であつて蚤と虱と南京虫と傳染病の巢である、従つて住民地を利用する時でも出来るだけ役所や